

# JFM だより

# Vol.11

※JFMとは、  
Japan  
Finance Organization  
for Municipalitiesの略称です。

今号の表紙.1

## 高知県南国市 津波避難タワー



JFMトピックス	P1
JFMをもっと知って!	P3
<b>融資 の実</b> 高知県南国市津波避難タワー	P5
香川県立善通寺養護学校	P7
がんばる公営競技	P9
自治体ファイナンス よもやま話	P11
地方支援ダイアリー	P13
私たちもJFM債買ってます!	P15
JFMからのお知らせ	P15

今号の表紙.2



## 香川県立 善通寺養護学校

地方の、地方による、地方のための



地方公共団体金融機構  
Japan Finance Organization for Municipalities





前浜伊都多タワー避難数557人・浸水深0.84m



Feature.1

## 高知県南国市津波避難タワー

# “「土佐のまほろば」に命を紡ぐ 宝山あり”住民の命を守る 「命山」を現代の技術で復活



南国市オリジナル  
防災キャラクター  
なんこく防災くん

南海トラフ地震の被害想定では、17分で津波が到達する高知県南国市。過去に何度も大きな地震と津波に襲われてきたものの、1946年(昭和21年)の南海地震では津波の被害が少なかったことから、市民の防災意識もそれ程高くありませんでした。しかし3.11東日本大震災後、市民の意識にも大きな変化が。津波到達まで、わずか17分で住民を助ける方法。それは過去、多くの命を救った「命山(いのちやま)」を復活させること。行政だけでなく市民との協力が生んだ現代の「命山」、それが14基の津波避難タワーです。

地震発生から17分後に  
16メートルの津波が……

フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込む南海トラフでは90~150年ごとに巨大地震が起き、東海・近畿・四国・九州の広い地域に甚大な被害を及ぼしてきました。特に心配されるのが津波で、震源が近いことから短時間に大きな波が襲ってくる可能性があり、太平洋に面した自治体では早急な対策が求められています。このような状況の中、先進的な取り組みとして注目を集めているのが高知県南国市の「命山構想」です。

「命山構想は、津波避難タワーの建設を中心にした津波避難対

策プロジェクトです。沿岸部の住民が地震発生から概ね5分程度で安全な場所に避難できる態勢を平成25年度末までに整えました」(南国市役所危機管理課 山田恭輔課長補佐)

南国市は、過去に何度も大きな地震に襲われてきましたが、直近の1946年(昭和21年)の南海地震で



避難用スロープ

は津波の被害が少なかったことから、市民の防災意識もそれ程高くありませんでした。しかし、東日本大震災の被災状況を目の当たりにしたことで、市民の意識も大きく変わったのです。

「高知龍馬空港がある南国市は、仙台空港のある宮城県岩沼市と姉妹都市を締結しています。低い平野が広がる沿岸部に多くの人が住み、しかも避難できる高台が少ないという、似たような条件をもつ岩沼市が津波の大きな被害にあったことで、市民も危機意識を高めました。それまで私たちも様々な防災・減災事業を行ってきましたが、これから市民と一体となって更なる防災・減災対策をしていかななくてははいけない。と意思を新たにしました。」(山田課長補佐)

そんな強い決意から震災の翌年(平成24年)を防災元年とし、詳細なプランづくりが始まったのです。

「内閣府が発表した『南海トラフ巨大地震の被害想定』、いわゆる新想定によって南国市では地震発生から約17分後に最大で16メートルもの津波が押し寄せてくる可能性がある」と指摘されましたが、私たちは新想定が出る前に、被害の少なかった安政南海地震ではなく、大きな被害をもたらした宝永地震を念頭に被害想定を出してきました。新想定が私達の想定と全く同じだったため、すぐに安全性の高い避難設備を実現できたのです」(危機管理課 西原三登氏)

## すべての住民の安全を守る タワーに施された多くの工夫

まだ全国にあまり前例がなかった津波避難タワーの建設だけに、「波や漂流物による衝撃に耐えられる構造基準は?」「確実に避難できるルートの確保は?」「避難してきた住民の生活支援の方法は?」といった細かい点をひとつひとつ自分たちで考えていかなければならず、危機管理課のメンバーは先駆者ゆえの苦勞を味わいます。検討の末、完成したタワーは、

- ・タワーまで5分以内に避難できる設置環境
- ・想定される波力の3倍に耐えられる構造

- ・車椅子でも上れるスロープ
- ・避難を呼びかける半鐘
- ・地震の揺れを感知して自動的に解錠する自動開錠ボックスなどの構造や設備を備えたタワーでした。津波の被害が予想される自治体から、モデルケースとして参考にしたいとの問い合わせが絶えないそうです。

「かつてこの地には小高い丘があり、度重なる津波から多くの命を救ってきました。その丘は「命山」と呼ばれていたのです。戦争中、空港の建設とともにこの丘も失われたのですが、津波避難タワーの建設は、まさに現代の命山を復活するプロジェクトだったのです」(西原氏)

完成した14基の津波避難タワーは住民から目視できる距離にあり、「地震があったらすぐに逃げ込める」安心感を与えてくれます。

「防災意識は、小さい時から高める必要があることから、3.11以前より、毎年9月の防災訓練は、学校を会場に行ってきました。小さいうちから地震・津波の際の避難の方法などの訓練をしっかり行うことで、確実に防災意識が高まっていると思っています。防災対策は避難タワーのようなハードを造っただけでは不十分ですから、これからはそういうソフトの部分を充実していかなければなりません。そういう意味では命山構想はずっと続いていくのです」(西原氏)



毛布やランタンなどがある備蓄倉庫



避難を呼びかける半鐘

### 高知県南国市情報コーナー

面積125.35km<sup>2</sup>

総人口48,568人(2014年6月末現在)

南国市は、高知自動車道南国I.C.、高知龍馬空港を有し、高知新港に隣接するなど優れたアクセス機能を持っています。高知の玄関都市として、交通の拠点であるとともに、土佐の稲作発祥の地として親しまれた田園風景の広がる美しいまちです。

